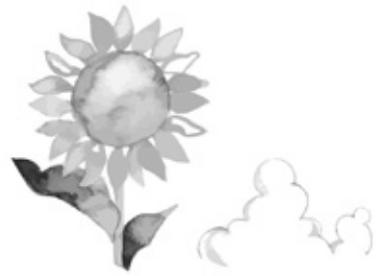


季節を詠む、
時流を詠む

四季の歌



美野里短歌クラブ

春野菜アサリの入るスパゲティ昼餉の風の爽やかなりし
うぐいすの谷渡り聴く賑やかな風土記の丘の枝垂れ桜に
「そうだね」の言葉がほしいお茶時間「そうじゃないよ」と又夫は言う
行きずりに挨拶かわし過ぎし人思い出せずふり返り見る
今日はここの明日はあそこと花日和家の近くの春を訪ねて

菱沼清子
菱沼友江
宇都宮和子
碓谷きえ
白根沢清香

小川短歌会

夢中だった介護の日日振向けばやつれた姿硝子に写る
昨年に住みし記念樹南高梅三個朝の陽ほこるが如く
昨日今日雨降ってたのに急に晴れ散歩しながら童謡歌う
菜園に茄子を植えおり「自然歴」母の教えに思いはせつつ
くさむらに卵を抱く母キジのいのちの必至みじろがぬさま

小川ヒロ子
佐藤正
根本智恵子
根本良子
中根啓子
幡谷啓子

玉里短歌会

水ぬるみ小川の芹も目立ちきて登山靴脱ぎ流れに浸す
静かなる森に高らかホトトギス渡りの途中か夏を告げに来
曾祖母の吾に親しみひろちゃんと呼べば笑顔をついと向ける
今の世の移り変わりは甚だし付いても行けず戻るもできず
睡蓮と見紛うばかり水張田に丸き葉浮かべる芽吹き蓮は

高田久子
石橋吉生
正木敦子
齋藤かつみ
野口初江

みづうみ俳句会

水無月の夏越の碓い屋敷神
高気温予報に急ぎ衣替え
桐の花車窓が楽し高山線
コロナ過ぎ集う市民の里まつり
風香る孫は巢立ちて大学生

みのり俳句会

水車小屋小町の里の柿若葉
昭和の日昭和生れの吾れも老ゆ
花種蒔く残りの種子の捨てがたき
薄物をまよって居りしおぼろ月
我が影も夏の川音聞いてをり

檸檬の会

人住まぬ文字の掠れに蜘蛛の住む
早苗田の早くも風に応えおり
立葵まつすく母のふところへ
緑蔭の間に立ち入る蟻いっぴき
子燕の大口全開電車遅延

くるみ俳句会

日を弾く野辺一面の柿若葉
パラパラと開く歳時記梅雨じめり
笑顔でも泣いているよな梅雨地蔵
父の日や笑顔遺影に吟醸酒
小流れの音も涼しき万里柱

たまり俳句会

あぢさゐの白さ愛でけり石地蔵
雨上がりあぢさゐの花競い咲く
寺領占む紫陽花百種彩競ふ
紫陽花やひと山染める小雨中
麦秋や戦火潰えぬウクライナ

小美玉川柳会

山はいい不満うっ積空に消え
野を破りパネル整列陽を拝む
マスクとり春風ふかれふらり旅
お帰りとと言う間も無しにハグとキス
つくばいの水面さわがす落ち椿

小林悠
江戸忠男
枝川白水
石井昭夫
橋本昇丘

松崎淑子
安彦昭子
大曾根工宣
小原工宣
信田菊女

井坂富久
村田妙子
石田敏江
木村小夜子

塚田文清
友藤清子
佐藤清心
島田草香
白根澤清

榎本喜代子
長島さか江
長島美奈子
長島美昭
長島久美子